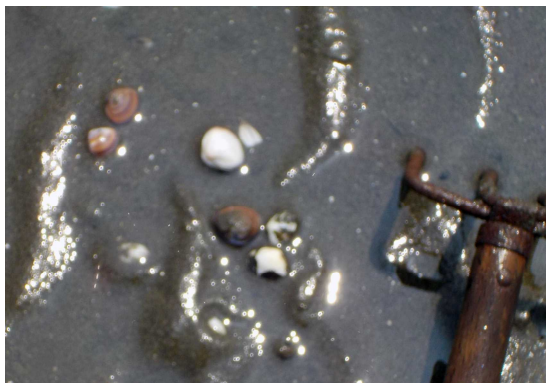


大潮の干潮の時刻である8月1日(木)の昼前後に調査。東京湾の干潮は11:11の3cmと大きく、仕切りロープ近くまで行くことができた。平日で人出は少なかった。水遊びができるようになったせいか、監視員が2人配置されていた。

沖までに行く途中の水溜りの水温は38度、仕切りロープ近くでも37度と高かった。



ある程度行ったところで、熊手を入れたらバカ貝の稚貝が、もう少し歩いたら、バカ貝稚貝、少し大きいシオフキ、数は少ないがアサリ稚貝がいた。



また数は少ないものの珍しくマテ貝を少し見ることができた。マテ貝は昔相当いて、取っている人もいたが、今年は貝類がこれまでより多い状況になっていて、着底後あまり流されなかったせいだろうか。

仕切りロープ近くでは、3cmくらいのシオフキ



が見られた。熊手を3~4かきすると当たるような感じ。また7.5cmの大きなハマグリに遭遇。昔ハマグリ稚貝が撒かれていて、2014年夏にハマグリを大量に取った人がいたが、それ以降は殆ど取れていない。たまたま残った数少ないハマグリに遭遇したのであろう。昨年取れた小型のハマグリはここで着底し育ったものと考えられる。

小型のカニはけっこういるが近づくと穴にもぐってしまい、掘っても出てこない。たまたま3cmくらいのをつかまえた。干潟調査の団体が来ていて、聞いたらオサガニということであった。

西渚手前の水路では、牡蠣殻がびっしり覆っていた。

